

REPORT | DMO 東京丸の内設立 5 周年イベントをユニークベニューで実施



会場から丸の内方面を望む

2023 年 10 月 25 日、DMO 東京丸の内の設立 5 周年を記念して、会員企業、MICE 業界関係者、ミーティングプランナー、丸の内エリアを中心としたグローバル企業のイベントプランナーの皆様をお招きしたレセプションパーティー「DMO 東京丸の内 DAY」を開催しました。

このパーティーは、業界関係者のネットワーキングやコミュニケーション促進、DMO 東京丸の内が将来的な大型 MICE 案件にも対応していくことを見据え、DMO 東京丸の内会員企業が連携して準備を進めていったものです。開催にあたり、観光庁の「海外からのミーティング・インセンティブ旅行誘致競争力向上事業」、東京観光財団の「ユニークベニュー会場設営支援事業」の助成支援も受け、実施しました。



左：普段の科学技術館屋上、右：イベント当日

会場となった皇居外苑 北の丸公園にある科学技術館の屋上は、これまで映画のロケ地などに利用されたことはありますが、MICE のパーティー会場などユニークベニューとしての活用は初めてです。普段は上図左のような空間ですが、当日は上図右のように「丸の内ストリートパーク」で使用した人工芝を敷き詰めてブースをセットアップ。丸の内をはじめ都心の高層ビルと皇居外苑の自然のコントラストが映える壮観な景色を眺めながら、落ち着いて会話ができる空間を作り上げました。ちなみに、雨天の場合は1階の展示スペースに同様の設営を施し開催することで計画され、その判断は前日に行われました。



多くのゲストにご参加いただきました

● 「MICE デスティネーション 丸の内」がDMO 東京丸の内の新たなチャレンジの場に



左：食器には環境に配慮した「WASARA」を採用、右：本来廃棄する部分の野菜を活用したメニュー

これまでユニークベニューとしての活用の前例がない科学技術館の屋上空間で開催するためには、特にケータリング面において様々な規制や制約がありました。この課題をクリアするために、保健所の求める食品衛生対応をきちんと取れるよう、事務局と会員企業がー丸となり、屋上にコンテナを設置したり、ケータリングの食材や調理方法を考慮するなど、万全の対応を行いました。

また、可能な限り CO2 を排出しないイベント運営を設計し、止むを得ない CO2 排出に関しては J クレジット購入によりカーボンオフセットを試みた他、通常廃棄される食材を活用、調理過程で排出した生ゴミのコンポスト、フードロス減らすための受注数設定、食器類は余剰資源である竹・サトウキビを原料にしたものを使用、招待状はすべて電子化するなど、脱プラスチック&ペーパーレスなどサステナビリティの観点においても、今後の MICE イベント開催に向けて様々な工夫とチャレンジを盛り込みました。



左：「丸の内ハニー」を用いたオリジナルカクテルを提供、右：案内板は誰でもわかるようにピクトグラムを活用

● 丸の内ならではのおもてなし

会員企業のザ・ペニンシュラ東京、帝国ホテル東京、東京會館、東京ステーションホテル、パレスホテル東京がワンチームとなって、「丸の内とサステナビリティ」をテーマとしたカナッペを提供。また、地産地消を推進するひとつのアイデアとして丸の内ハニーを使ったウェルカムドリンクや一保堂茶舗丸の内による点茶サービスで日本らしい和のおもてなしを体験していただくなど、チーム丸の内ならではの特別メニューを振舞いました。



左：各ホテルのシェフが腕を振るい、サステナブルメニューを用意

右：現地で抹茶を立てる一保堂茶舗のサービスも人気

各会員企業の魅力やチーム丸の内としての一体感、おもてなしを表現する場とし、ラッキードロウ(抽選会)の景品やゲストへのお土産も会員企業の関連アイテムを採用し、最初から最後まで来場者の皆様に「MICE デスティネーション 丸の内」を存分にアピールできたイベントとなりました



左：パレスホテル東京、東京會館、東京ステーションホテル、

ザ・ペニンシュラ東京、帝国ホテル東京、丸の内ホテルからのお土産

右：ドリンクはサントリーホールディングス株式会社より提供



左：当日は DJ やプロジェクションマッピングで会場を華やかに演出
右：ラッキードローは、ゲストの皆様にも大いに楽しんでいただきました

● 会員企業の連携によって実現できた 5 周年イベント



パレスホテル東京の沖崎晃一氏（写真左）と DMO 東京丸の内事務局長の藤井宏章（写真右）

今回のイベントでは将来の大型案件にも対応できるよう、当局を代表する一流ホテル・宴会場会員がワンチームとなってゲストをおもてなし致しました。そのケータリング連携実現に向けて中心的な役割を担ったのがパレスホテル東京の取締役兼国内営業部グローバルセールス部部長の沖崎晃一氏。沖崎氏は今回のイベント開催の意義を次のように話しました。

「丸の内のように多用途に対応できる施設や店舗が集積した世界的にも稀有なエリアの中で、DMO 東京丸の内はいち早く MICE に着眼した組織であり、この 5 年間で着実にエリアの魅力を高めてくれました。コロナ禍を経て安心安全へのニーズが高まる社会の中で、DMO 東京丸の内の会員企業と協力してイベントを開催した経験は、エリアの競争力を高めていく上で大いに役立っていくでしょう」（沖崎氏）



左：バックヤードでは各ホテルのスタッフが企業の垣根を超えて協力、右：開場前にスタッフ一同で記念撮影

普段は競合相手である同業他社とイベントを通じて密にコミュニケーションを取り、知見を共有できたことは、業界にもメリットを与えるとも話します。

「観光業界がコロナによって受けたダメージの中でも重大なものが人材不足で、需要が回復してきても人材不足でお客様の要望に応えきれない現実があります。その中で、今回他のホテルとつながりができたことで相互協力する機運が高まったとも感じています。また、屋外でケータリングを提供する上でクリアすべき規制や制約が多々ありますが、それを実体験でき、会員企業や関係施設と共有できたことは、今後に向けて非常に大きな経験になります。もちろん普段は競合ですが、MICE に関してはエリア勝負ですので、今後も DMO 東京丸の内事務局や会員企業の皆様と連携して色々なことに取り組んでいきたいと思っています」（同）

DMO 東京丸の内事務局長の藤井宏章は、沖崎氏や準備に奔走してくれた会員企業に対して、次のようにお礼を述べました。

「1000 名以上と言った大規模なパーティーは昨今の人手不足で一社だけでは対応が難しい状況となっていたと伺っていましたが、今回、会員の複数企業が連携してサービスを提供するというスキームの実証ができ、大規模案件への対応の可能性を切り開くことができたの

ではないかと考えています。また、科学技術館屋上のようなユニークベニュー活用の前例のない場所でも、プロフェッショナルの皆様が協議し、解決策を見つけながら催しが開催できたことは、本当にありがたく思いますし、貴重な経験でした。この実績を活かして新たなユニークベニューの発掘にも尽力していきます」(藤井)

2018 年の発足以降、DMO 東京丸の内では様々な取り組みを行ってきました。コロナ禍という未曾有の事態で活動が難しい時期もありましたが、会員企業や業界関係者の皆様のご協力のおかげで、このような 5 周年パーティーを開催することができました。これからも皆様と手を携えて丸の内エリアの魅力向上に邁進していきます。引き続き DMO 東京丸の内の活動にぜひご期待ください。